



読字 原田 鏡

No. 796

2016/ 4/25

# 日中友好新聞

発行所  
日本中国友好協会  
〒110-0005 東京都千代田区千代田1-1-1

日中友好協会  
岡山支部  
〒713-8256  
岡山市東区3-8-30 514  
TEL:086(272)-3016  
郵便番号1100  
01250-0-3835

日中友好協会  
倉敷支部  
〒713-8911  
倉敷市遊島中央1-8-4 (宮地方)  
TEL/FAX:086(445)-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ  
<http://rizhong.biz/>  
メールアドレス  
rizhong86@hotmail.co.jp



## 「中国残留日本人孤児と日本国憲法」

### 学習会に参加して

4月10日、ライブパーク倉敷で、小林軍治さん、山縣さんに講師をお願いし、学習会を行い25人が参加しました。多くの資料で、分かりやすく教えてもらいました。

私は、憲法を生かす運動をしているつもりですが、国策としての満州開拓団については、中国残留日本人孤児が訪日して、肉親捜しをした当時のテレビに映る姿を見、判明し



立って説明している右側の人が山縣さん

た人は良かったなと思うくらいでした。昨年、望郷の鐘を見て、日本軍は開拓団を守らなかったことを知りました。そして、NHKスペシャル日本人の戦争でみた時の、戦争遂行に長野県がなぜ多いのかなと感じていました。このことについては、学習会のはじめで、満州開拓団は、いつごろどんな目的、どのような人々が参加したのかで説明を受け、知ることができました。

それは、長野県の産業である生糸生産が、1929年の世界大恐慌で打撃を受けたこと。長野県は教育界と言われ信濃教育会が開拓青年を育てたことを、理解しました。日本全体としての目的、役割は、①日本国内における農村過剰人口・農村窮乏の打開策のため ②「満州国」における日本人人口の構成比率を高め、産業開発をすすめるた

め ③軍や警察に代わって治安を維持し、対ソ防衛のためでした。戦後、沖縄が銃剣とブルドーザーで米軍に土地をとりたように、立場を変えれば満州開拓によって現地の人土地を取られたのではない。開拓団では小地主の気分になつていたようですが、関東軍は南方戦線に向かうため放棄地域が出ました。また開拓団は召集されないといわれていたが、召集され男子はいない状況になつたそうです。軍人・軍属・満鉄関係者には情勢の緊迫を知らせ、開拓団には知らせず見捨てられた。開拓団の子どもに残留孤児が多いのはこのためです。ホワイトボードに張られた“わたしたちなにじんですか？”をみて、残留孤児の思いが凝縮しています。関東軍に見捨てられ苦難

を乗り越えた残留孤児にとって、①国の三度にわたる孤児への棄民政策の責任を問う ②老後の生活保障を求めた中国残留孤児」国家賠償請求訴訟は勝訴して当然です。小林さんは、正しい歴史認識のためには、相手の立場で考え、想像力をはたらかすことの必要性を言われました。七・七をどう見るかで、日本は七夕のことしか考えないが、中国にとっては1937年の盧溝橋事件のことですと述べられました。よく言われる足を踏まれた苦しみはいつまでも残ります。相手が「もういいよ」というまであやまる気持ちをもつ中に日中友好があると思います。

今回の学習を基に、長野県阿智村へ行ってきます。

## ある中国残留婦人の生涯

### — 鴨井千代子さんのこと —

次の文章は、学習会で山縣さんが資料として配布されたものです。ある残留婦人の生涯— 鴨井千代子さんのこと

—と題する文章で、中国帰国者問題がよくわかる内容で

千代子さんとは、10年前に出会った。倉敷でも日本語

教室の開設をという声があがった時だった。巡り合わせというのは、ドラマチックである。千代子さんとの出会いもそうであった。入院なんかすると、あなたは、不死身だ」とよく言った。

鴨井一家6人は、彼女が7歳の時、満蒙開拓団の七虎力(ひちりき)、備前郷に入植した。満蒙というのは、満州と蒙古を指し、地理上の中国の東北部の地域である。当時のソ連と満州国との国境沿いに、「防共」と北辺守備のために農耕従事者を開拓移民として、居住させた。その数27万人といわれている。その三分の一は母国に帰ることができなかった。悲劇の大地」と言われる。

日本は、日清戦争(一八九四年)、第一次世界大戦、満州事変(一九三一年)によって、権益を奪い中国を植民地化していった。



## 第29期中国語講座が始まりました。

4月2日(土)から中国語講座の第29期(4月〜9月)が始まりました。今期は4名の方が参加されています。田中さん、植田さん、三宅さんと私です。この講座も始まってからももう3年も過ぎたことになります。最初の講師が郭始光さん、次が張燃さん、そして今が欧陽蕾蕾さんと素敵な先生たちと過ごす土曜の午後は、大切な時間です。日本に勉強に来ている若い中国の留学生たちと触れ合うことは、本当の中国を生で知る貴

重な体験です。食べ物や文化の違い、習慣の違いなど勉強の中で話がどんどん膨らみます。長い歴史を持つ大中国、そこに住んでいる14億の人々、その中の一人である老師との時間はとても貴重なものだと思います。授業の後半は老師が中国語で質問をしてくれますよ。

皆さんも一度授業をのぞきに来てみてください。一緒に中国語を学びましょう!!

真田

## ―地面は美しい絨毯のようだ―

4月8日、芳田日本語学習講座の受講生6人と講師3人は、後樂園に桜を見に行きました。

まず、桜の木の下に行きま

た。桜が満開を過ぎ、散っていました。たくさんのお花びらが、雪のように落ちてきました。地面は美しい絨毯のようでした。



## お花見会



した。桜の香りに惹かれました。白色や粉色などきれいな花がいっぱい、気持ちが良いです。緑色の葉が出てきていました。人がおおせいいました。景色は一番きれいでした。桜を見て、写真を撮って、私たちは散歩と花見を楽しみました。



## 戦争遺跡に学ぶ平和の尊さ

3月17日、倉敷医療生協水島街づくり委員会と日中友好協会倉敷支部共催で戦争遺跡に学ぶ見学ツアーとして、大久野島に行きました。

大久野島は、広島県竹原市忠海の沖合に浮かぶ南国ムードたっぷりの周囲4kmのウサギが遊ぶリゾートアイランドです。私たちが訪れた日は、平日にもかかわらず、大勢の幼児ずれの若い夫婦で賑わっていました。連絡船でやっ



た。

本当にきれいな花。

それから中華料理店へ行きました。おいしい料理とラーメンを食べました。ほんとに楽しい一日でした。

守本信子

## 総社日本語教室

4月7日、12時から「お花見会」をしました。受講生2人、受講生の夫1人、講師5人です。

当日は、あいにくの雨で私の中から持参したソメイヨシノ、山桜、山吹、つつじ、クリスマスローズ、紫だいらの花を

西森文子

てくる人々を島内700羽と言われるウサギが迎えてくれます。

その大久野島には、もう1つの顔があります。それは旧日本陸軍が1929年から15年間毒ガスを製造し、多くの外国人を毒ガスで殺傷した加害の歴史を持つ島であるということです。

当時、毒ガスは国際条約で使用が禁止されていました。にもかかわらず、日本は秘かにこの島で毒ガスを製造し、国際条約に違反して戦争に使用し、外国人特に中国人を多く殺傷したのです。私は今まで日本国内各地の戦争と平和に関する資料館を数多く見てきましたが、日本が犯した戦争加害のことに触れたものは、ほとんどありませんでした。

今回の大久野島の戦争遺跡に学ぶ見学ツアーは、日本が犯した戦争加害の事実を私たちにしっかりと教えてくれました。



私たちが子や孫に戦争の悲しさ、愚かさ、平和の尊さを話す時、被害・加害の両面を語ることも大切であるか、大久野島から平和と環境を考える会」の山内正之先生のご講演と島内フィールドワークがそれを教えてくれました。とても有意義な楽しい旅でした。

(日中友好協会倉敷支部 副理事長 大本芳子)

次回の新聞発送作業は5月2日(月)午後1時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

川内井本 和 石小竹坪光

